



県では、人口減少下においても、将来に渡って住み慣れた地域に安心して住み続けられるよう、「宮崎ひなた生活圏づくり」の取組として、地域運営組織の形成等を支援しています。この通信では、地域で暮らす人々が中心となって地域課題の解決に取り組んでいる事例など、これからの地域活動のヒントとなるようなものを発信していきます。

地域運営組織設立までの流れと高齢者の居場所づくりについて ～ぎおんの里づくり協議会～

地域名 : 五ヶ瀬町鞍岡地区
活動地域 : 五ヶ瀬町鞍岡地区内
団体名 : ぎおんの里づくり協議会
地域概況 : 人口884人、
世帯数369世帯、高齢化率51.7%
(住民基本台帳 令和6年2月29日現在)



鞍岡中学校旧校舎。現在は協議会の活動拠点となっている。

※ 協議会会長の白瀧様、事務局長として活動をサポートしている集落支援員的那須様にお話を伺いました。

Q1. 協議会設立の経緯は？

- 平成27年度に鞍岡中学校が閉校したことを受け、行政、公民館長を中心に旧校舎の施設利用について協議を重ねたところ、「単に旧校舎の利用にとどまらず、持続可能な集落づくりのために地域運営組織の形成が必要」との結論に至りました。その後、地域住民を含めた検討部会・準備委員会にて協議を行い、閉校から約6年の時間を要しましたが、協議会を設立することができました。
- 設立までに時間を要しましたが、検討の段階で、地域の現状（課題）を洗い出すことが重要です。実際に、「一人暮らしの高齢者が多く、居場所づくりが必要」との意見が出され、この意見が現在の活動にもつながっています。

Q2. 協議会を設立して良かったことは？

- 高齢者の居場所づくりができたことで、高齢者が元気に笑顔で過ごせていることです。
- イベントの企画やボランティアの確保など、大変なこともあります。イベントに参加した方の楽しんでいる姿や、「ありがとう」という言葉で、やって良かったなと思えます。



子ども食堂



マルシェ

Q3. 具体的にどんな活動をしているの？

- 高齢者の居場所づくりとして、毎月1回『コミュニティ食堂』を開催しており、毎回40名ほどが参加しています。
- 夏休み期間中に『子ども食堂』を開催しています。令和5年度は5日間開催し、毎回30名ほどの参加がありました。子ども達だけではなく、その親からも大変好評な企画です。
- 毎週水曜日にマルシェを開催しています。「特産センターごかせ」の協力もあり、野菜や果物などの生鮮品や、お菓子などを販売しています。高齢者の居場所づくりのほか、買物支援の側面を有しています。
- このほか、防災・福祉・環境など、幅広い分野で活動を実施していますが、長続きのコツは「無理をしないこと」です。

Q4. 今後の展望は？

- まずは、今の活動を続けていくことが重要と考えています。しかし、活動に参加するメンバーが固定化され、高齢にもなってきたため、いかにして子育て世代を引き入れることができるかが今後の課題です。
- 事務局（集落支援員）にバンドの経験者がいることもあり、定期的に演奏会を開催しています。子ども達が音楽や楽器の演奏に触れることで、「将来、帰って来たいと思える地域になる」一つのきっかけになればと願っています。



地域で移動支援の取組を検討する際の参考資料として『地域で始める移動支援手順書』を作成していますので、御活用ください。



手順書はコチラ



宮崎県総合政策部中山間・地域政策課
中山間・特定地域振興担当
電話:0985-26-7036
メール:chusankan-chiiki@pref.miyazaki.lg.jp